

刊夕日三月十

常磐每日新聞

定価 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢
 廣告料 五號十二字 第一行 五錢 五拾錢
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

象徴と寫實と (上)

挿繪に對する私見

水野 秀雄

最近、僕は新聞の小説を樂しみにして讀んでゐるのだが、小説欄を開くとすぐまづ昨日の續きに目をさらすのである。

さうして、その文章を鑑賞し、筋の展開の是非を批判してみる。といふよりはこれらの思考力を同時に働かせながら讀んでゆくのである。

強く印象に残つた部分などは、友達と會ふ毎にその部分に就てお互の感想を話し合つて勉強の足しにするのである。

ノート

葉書宛名には侍史 御許に

ど脇附の字は用ひない何々様方は別行に書く方がよい

あとでその日の挿繪を見るのも楽しいことの一つになつてゐる。聊か、繪をやつたことのある妻に言はせると僕の繪に對して、持つ好みは文學的な、感傷的な、甚だ甘いものなんださうであるが、然し、僕のこの傾

向は、小説の挿繪を見る場合には大して不都合ではないらしいのである。

何故かと言ふに、新聞小説の挿繪に於ける大切な條件の一つとして、僕は分り易いといふことが擧げられねばならないと信ずる。所謂藝術的な深みを持つたむづかしい繪よりは、藝

明日の献立

【朝】味噌汁——葱 小
付 昆布

【晝】油煮 荒芽 油揚
【晚】フライ 秋刀魚
ソースオムレツ松茸入

術的香氣を失はない程度にあつて、而も、見てすぐ分る繪でなければならぬと思ふのである。

そんな意味で、僕が持つぐらゐの鑑賞眼でも、挿繪に對して意見を持つことは、大して生意氣なことではあるまいとおもふ。

蟲と人

——舊作より——

木津 茂太郎

○しみじみさみし虫の聲する
○草履くけ岸に立つてゐる子守の娘

○飯くふのもごかけるのもひとり

○電柱に雲がひつかかつてゐる山道を行く

○沼べりにすわつてゐる日のさすさすなみ

○春の雨ふる家の中にかんがへてゐる(春三句)

○なにをなやむや雨しとどにふるを

○松の木と私雨がふりつゞける

○日を浴びて雨を浴びて松はまいにち

○遠くに道の一本見えて草ふかいあたり

○ふつくら顔笑みかけますその肩です(マシ子)

【俳句】:
林 茂次

秋風や空家となりし崖の家

秋風や瓢色づく軒柱

秋の星愈隨な人を笑ひけり

秋晴や一山めぐる竹の色風ぬき晝一時の小春かな

こぼろぎや晝淋しさの蠶室

名月の芒を買ひに來りけり

新涼の鏡明るく見入りけり

外科

門 專
科 線 光 X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町九六

喜多流 仕舞 白土會

◇詳細は本會へ御問合せ下さい 電話一二七番

有給外務員數名募集

一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
一、固定給の外旅費支給す
御希望の方は履歴書持參談を乞ふ
(明治十四年創立)
保險の開祖

明治生命保險株式會社

平 事務所

所長 小野 勝 康

平・仲町

開業御披露奉任

お酒に三品 (外に)

永年谷口樓で御得意様の御用を勤めました。が今回左記の通り開業致しました。何卒御ひるきを願ひます。

平町新田町

三日 松 富

電話二四七番

今年も例年通り

かまぼこ製造

お稽古

相はじめました何卒御用命の程!
平町一丁目

お惣菜用
さつま揚
吉原揚

不味實

電話一四一番

おなじみの……

よせなべと

松茸の……

土びんむし相始めました

何卒御試食下さい

平二警察署通り

魚清食堂

電話六三三

出前やさん至急入用

石炭

コークス

玉炭

平 驛 前

阿部石炭商店

電話三七番

待望の卅圓を突破

高値を迎へて出荷頓に旺盛

四倉藪場

生糸の高値に刺撃されて品不足から連日新高値續出の四倉藪市場は昨日に近來にない出廻を見て取引高千七百十五貫二百匁に及び而も農家が夢想に描いて居た卅圓臺も遂に昨日の最高三十圓五十錢に依つて破られ引續く強氣張りに農家は赤飯をたいて祝ふと云ふ活況を出現したが當日は最高三十圓五十錢、最低廿三圓、馴二十八圓六十錢と前日の馴相場より八十六錢の高値である、尙昨日迄の取引数は六千二百貫七百四十匁で昨年同期の二萬貫に比し出廻薄の爲め仲買人の買付けは愈々激化しつつあると

平町に政府米

二百廿三俵拂下

飯米欠乏の農家喜ぶ

平町農會ではさきに會長山崎與三郎氏の名に依り政府に對して三白俵の拂下げ米交附方を申請中であつたが一日付で二百二十三俵の拂下げを許可されたので近く着荷次第一俵九圓三十五錢の割で飯米に窮して町内七十一戸の農家に對し五俵内至三俵宛讓渡する筈であるが平町の現在相場の一圓四十錢の高値に比し非常な安値なので喜ばれてゐる

平電局大繁忙

加増も上賣手切

報の發信及び到着数は

平郵便局の電信室で去月中に取扱つた電報の發信及び到着数は

減收であつたと

職業指導に平商の懇談

六日午後一時より同校講堂に於て職業指導に關する座談會を開くことになつたがこれは來春の卒業生に希望職業を認識せしめる爲め校長及組主任が中心となつて懇談し萬全を期するにある

梨列車が

四十車突破か

既報平驛では去月下旬より梨輸送の貨切車を運轉して居るが本日迄に廿車を東京方面に發送した本月中旬頃

三夫婦揃つて

高麗橋渡初め

新川町松崎長太郎氏か

新築漸く成つた平町城山高麗橋の竣工式は来る二十八日午前十時から現場で青沼町長外多數關係者列席の下に舉行されるが當日晴れの渡初めを行ふ三組夫婦は目下町役場の人選中であるが多分新川町松崎長太郎氏の家族に決定する筈である

検事正歸廳

既報昨日和田監督書と共に來平

迄は梨の輸送期なので締切までに昨年の四十車を突破するものと見られて居る

自動車で

農業の視察

江名町農會員十四名は同會指導員山喜作氏引卒の下に今三日から二泊三日の旅程で自動車による静岡、愛知、東京方面の農業視察旅行の途に着いた

豚の丹毒

豫防注射

石城郡農會では豚の丹毒豫防の爲め九日から左記日割により豫防注射を執行する
九日山田(五三)十日江名(五五)十一日玉川(四三)十二日高久(九三)十三日四夏井(一〇)四十五日神谷(三五)十六日草野(六二)十七日大野(六七)

産業組合擴充計畫

十六日郡下役員を招集協議

警城産業組合部會では郡下組合の販賣並に購買の擴充を具體化する爲め来る十六日午前十時より團體事務所にて郡下組合役員を招き諸計畫に就いて協議すると

教育勸語奉讀

平町各中等學校及び各小學校は

来る三十日教育勸語御下賜記念日に當るので奉讀式を舉行する由

第一驛傳

來月五日に

既報平第一小學校兒童の驛傳競争の有日は十一月五日と決定コースは例年通り町内一周の由

大井川氏叙勳

警中配屬將校歩兵中佐大井川八郎氏は

過般の上海事變に出征した功に依り此程勳四等旭日小綬章を授與された

小名濱の町會

小名濱町會は

三日午前十時から招集魚乾燥場設置を附議する

灌道路の改修

上遠野村灌地内道路改修工事は

二百五十圓の地元負擔、總工費千圓を以て去る一日着工したが年内に完成の豫定である

江名漁業に

請願巡査配置

平署及び江名漁業組合から縣に對して申請中であつた江名漁業請願巡査配置は今三日付で許可になつたので

近く配置巡査を正式任命の筈

青年對抗剣道

警中玉川兩村青年團對抗剣道試

合は三日午後一時から警中第一小學校で舉行

炭礦聯合庭球

常警炭礦聯合庭球大會は

七日午前九時から古河炭礦コードで舉行される

入山礦運動一束

入山炭礦は

十四日入山グラウンドで各區對抗運動會を催す

同礦撞球部は

二十日午後六時から

平俱樂部と對抗撞球試合を舉行

同礦弓道部は

二十一日午前九時から

臺の山弓道場で從業員弓道大會を催す

第四回入山、日立製作所對

抗競技戦は

二十一日正午から入山グラウンドで舉行

裁判所たより

△内郷村大字御臺境字鬼越

八自動車運轉手久野作衛(三)は乗合自動車運轉江尻正光(二)君に衝突頭部其他に全治約二週間を要する傷害を與へ業務上過失傷害

罪として罰金二十圓

△四倉町字本町二丁目木職

川又八重松(三)は保護鳥メジロ二羽を捕獲狩獵法違反として罰金十圓に本日平區才判所に於て略式命令を以て處分された

△既報去る二十日頃平南町平館前下水堀に於て山下八重さんが落した時價八十圓の帶止一ヶを拾得しこれを届出せず僅か一圓で他に賣却横領した内郷村大字宮字代六八層拾芳賀清太郎(三)は本日平區才判所に於て遺失物横領罪として科料十圓に略式命令を以て處分された

平職界紹介所報告

回人を求める方

△豆腐賣子 十九―五十才
月十圓位
△女中 十六―四十才位
尋卒 月二圓五十錢位
△女中 二十才前後 尋卒
月五六圓位
△旅館女中 十七―四〇才
迄 尋卒 二圓五十錢
△女中 二十才前後 尋卒
月五六圓位

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

回職を求めめる方

△鍛冶工見習 十九才 尋卒
△自動車助手 廿二才 高卒
△海産雜夫 二十三才 高卒
△商店員 二十九才 高卒
△製板雜夫 廿三才 高卒
△蠶業教師 廿四才 界卒

薄命な

恩師の遺骨

教へ子達が埋葬

稀れな教育美談

亡き恩師の遺骨に涙を注ぐ
 教へ子の純情——元平第二
 小學校訓導四家安男氏は永
 き患ひの爲め若干の貯へも
 費ひ果して各方面より同情
 に訴へ豊間村回春園に入院
 一人淋しく此世を去つたが
 其後遺骨を見守る遺族もな
 く二ヶ年を経過する今日今
 もまだ埋葬されず回春園の
 一室に捨て置かれるのでこ
 れを聞いた當時の教へ子達
 は此の薄命な亡き恩師の靈
 を慰むる爲め母校の津田校
 長に圖り出身地豊間村の墓

成績品の

家庭回覧

平第一小學校は来る十一月
 上旬全校児童の成績品家庭
 回覧を行ふ

時局に因んだ

運動會の番組

けふ雨にもめげず元氣に

平第二小學校陸上運動會は
 小雨降る今日午前七時半よ
 り同校々庭に於て開かれ國
 旗掲揚、宮城遙拜の後津田
 校長の開會の辭に次いで運
 動會を合唱直ちに演技に移
 り午後二時萬歳三唱盛會裡
 に終りを告げたが今年の目
 新しい演技は演劇視察、非
 常時日本、彈丸進び、襲撃
 銃後の花、日滿親善マスケ
 ーム、護れ日滿、御國の光
 東郷艦隊行進曲等々時局に

小泉英次方簡乾燥場より二
 日午前十時、然發火、附
 近の人々直ちに駆けつけ消
 し止めたが同家は去月も乾
 草室より小火を出した事
 がある

繼母と口論

少年の家出

昨日午後九時頃平驛構内
 を徘徊する舉動不審の少年
 を平署員が発見取調すると
 右は久の濱町江の網池田源
 吉(一)で當夜繼母と口論の
 未そのまゝ家出上野行列車
 に乗り込まんとしたるたも

木賃宿で拾つた戀

今様お半長右衛門

テンカン持ちが難儀の種

蜜月旅行の終幕

今三日午前十時頃黒染めの
 法衣を着た六十才前後の老
 人が平署の人事

相談所に 出頭行脚の

僧だが連立つた妻が重病に
 悩んで居るので實家に歸し
 たいので旅費を御寄捨相成
 りたいと願ひ出た、小林次
 席警部補が事情をきくと

件の僧は 山形縣東田

川郡狩川村出身北海道旭川
 市の勝光寺といふ破れ寺の
 住持日向竹造(六)で今から
 五年前何を思ひ立つてか霞
 とにもに全國雲水の旅路に
 上り去る昭和七年冬

山梨縣下の某木賃宿

に草鞋の緒を解いた折柄同
 宿の宮城縣菊田郡小原村千
 代吉四女刈部キセ(三)とい

明日のラジオ
 西の風晴曇半す
 今夜も明日も北

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
 獨唱、永田志津子
 後六、二五 基礎英語講座
 (九)岡倉由三郎
 後七、三〇 講演「小學校
 建築について」工學博士
 佐野利器
 後八、〇〇 東海通演藝道

後八、五五 浪花節 鳴渡
 榎太鼓 廣澤虎吉
 後九、三〇 時報 ニュー
 ス 氣象通報 番組豫告
 明日の部
 前六、三〇 基礎獨語講座
 (十)岡本修助

軍人思想

普及講演 縣では

援思想の普及を圖る爲め來

る十一日四倉小學校で四倉
 大野、大浦、草野各村の在
 郷軍人青年團員を招集時局
 と軍人後援の講演及び懇談
 會を開くが講師は縣の矢部
 主事である

入山の戦功者 入山

炭礦従業員左記七氏は滿洲
 事變出征の戦功によりそれ
 論行功賞を受けた

▲勳八等白色桐葉章日野

俊男 鈴木正男 紺野春
 雄 加藤新治 宮崎一郎
 齊藤義男 ▲勳八等瑞寶章
 大柳政直

中村事務來平 仙臺

市七十七銀行事務取締役中
 村梅藏氏は本日同行平支店
 及び小名濱出張所の事務視
 察の爲み來平したので關係
 者が發起となつて午後六時
 より住吉屋本店に歡迎會を
 開く

前七、〇一 聖典講讀 柴
 田一能
 前九、二〇 料理献 鮎
 のインデアン揚
 前一〇、三〇 家庭講座
 一牛乳の新規則と家庭の
 注意—宮城縣衛生技師遠
 藤藤助
 後八、〇〇 講演神山山陽
 後二、五〇 ラグビーリ
 グ戦 慶應對商大神宮競
 技場より中繼
 後六、〇〇 子供の時間
 お話 神武天皇御東遷文
 學博士中村孝也

平局慰安茸狩 既報
 平郵便局では来る十三、十
 四の兩日男女従業員百三十
 餘名を二班に分けて大野村
 平岩地内に於いて松茸狩を
 行ふ

平商四年演習 平商

は来る三十一日駒場配屬將
 校及び麻原教官指導の下に
 湯本町方面に於て四年生約
 百名の野外演習を行ふ

内郷の運動會 全郷

第三小學校では来る七日午
 前七時半より磐炭グラウンド
 に於て全校児童の秋季陸上
 運動會を催すと

俺の行く所は

案に相違の留置場

平署に怒鳴り込んだ泥酔漢

住所不定宮城縣伊具郡丸森

村生れ表具師龜井己之五郎
 (六)は昨夜平町鎌田町木賃
 宿三河屋に投宿したが所用
 のため外出したついでに各
 所を梯子飲み飲み歩きべ
 ろへに泥酔午後九時頃二
 回に亘つて平署に出頭「俺
 の行く所は何處だ、案内し
 ろ」と怒鳴り署員を煙に捲
 いたが「貴様の行く處は此
 所だ」とばかり留置場に叩
 き込まれ今朝三河屋に引取

平町人事

結婚 姻

△月見町三〇 根本重也氏

(二七)二丁目三〇庄吉氏
 二女中野トシ子さん(二
 二)

△久保町四二 恒次郎氏長
 男荒川一郎氏(二四)紺屋
 町二七番地玉彌氏四女馬
 目福子さん(二二)

浮世の比喩 新音頭

(藤原敏上段上巻)

田邊南龍(作)
山本芙蓉(書)

…一四九:

役人の前で詐僞

「左様でございます、宜しく御賢察を願ひます」

「コレ權八、聞く通りぢや長右衛門は其方を知らん、金子などは預からんと申し居る、何か其方言ひがかりを申立て、御上を欺したるのであるか」

此時權八少しく膝を進めて

「恐れながら申上げます、何とて權八御上御役人を欺さ奉りませうや、案ずる處長右衛門は、權八が斯様な身の上になりました故、以前懇意に致したなどと申し、御上のお疑ひでも蒙りはせぬかと心得知らぬ存せぬと申すに相違ございませぬ、モン伊丹屋さん、久しぶりでしたな、先年私か當所へ滞在中は一方ならぬ御厚情を頂きまして有難う存じました、權八は女色の爲に身を過り、お恥しい斯様な姿に相成りましたが、決して貴方に御迷惑を掛けるやうな事はございませぬ故、どうぞ御安心下さいませ、さうして其の節お預け申しました金子二百兩、どうぞ只今御返濟願ひたう存じます」

「マア何といふ事を云ひな

さる、盗人猛々しいといふのは此の事、お前さんのやうな人は、遇ふのも今が始めて、満らぬ冗談は止めて下さい、伊丹屋長右衛門大迷惑だ」

權八はカラ／＼と笑つて



「冗談といふは其方の事、權八此の期に及んで何と偽りを申ませうや、又強ひて知らぬ預からんと仰せらるゝなら某にも勝る大膽、マア宜い加減に金子をお返しなさるが却つて貴方のお爲でござらう」

は之より江戸表へ差送りに相成り御奉行の御調べを受ける、其節に之までの事は一から十まで少しも包まず申上げる考へ、随つて貴方の事も序に出ませうが、其の邊はお含／＼下さされて悪からず思召を願ひたい、

「ナ何と云はつしやる、何がお爲だ、預かりませぬ金を預けたなどと、お細にかゝつてまでもまだ悪事をしやうといふ、よく／＼お前は極道者だな」

「ハ、ア左様か、然らば是非に及ばぬ、人の運勢の傾く時は是非もない、若し此の權八が、並の身體であるならば、眞逆貴方も斯様な事は仰せられまい、宜しい／＼、御返濟には及ばぬ諦めませう、然し、御念の爲に申し上げて置くが、拙者御身は元神奈川の老百姓、僅かの金を人に貸し、其の金が返らぬと娘を貸取り道中の宿々へ連れ行きては遊女飯盛に賣拂ひ、夫に追々金を貯め此の藤澤へ旅店を出し、運に叶ひて質兩替屋、今では此の宿でも指折の財産家とおなりなすつたが、随分之まで無理もして來なすつたなア」

と云はれた時には長右衛門眞蒼になつた、權八の云ふ處少しも違はない、どうして此奴がそんな事を知つてゐるか夫を江戸の御奉行所へ嘍り出されては大變之は背に腹は替られぬいと考へたので相模屋五兵衛に仲裁を頼みまして遂に金子二百兩、口惜なみだを流しながら伊丹屋長右衛門が出しました。

權八が先年此の藤澤に泊つた時に宿の女中から伊丹屋長右衛門の話を聞いた事がございませう夫をよと思ひ出したので預けもしない二百兩の金を預けたと言ひ掛りを云つて、舊惡を役人の前であばいた。

電話 79 番

貸切

是非 迅速—親切—御客様本位の……

平三丁目警察署通り

平タクシーへ

▲長距離は特に御相談致します。

書道用半紙
厚口……一帖八錢
薄口……一帖五錢
畫仙紙
白唐紙
二双紙
色紙。短冊。畫帖。
各種取揃へてございます
マルチモ
柴田書店
平町四丁目
電話一二四番
電話二三四番
御障子紙
一本(四枚張)金廿五錢
是非御用命をお待ち申して居ります

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

夜間

診 療

腸胃 性病

内科 皮膚科

胃腸病科 花柳病科

専門 門

院醫科性病胃腸村松

(番七〇一電町南町平)

味覺の秋を樂しめる

香氣のよい 松茸料理種々

—多少に不拘出前迅速—

仕出し 専門 錦水

電話四五四

●店員募集

年齢十五、十六、希望者は至急來店あれ

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番